

平成25年度障害者地域自立支援協議会 就労支援専門部会 検討内容

第1回（平成25年7月2日）・・・当事者部会への質問事項、進め方と到達目標の確認

第2回（平成25年11月26日）・・・当事者部会報告、中間的な仕組みづくり、地域資源との連携の具体化

第3回（平成26年3月11日）・・・中間的な仕組みづくり、地域資源との連携の具体化、検討のまとめ

<H25年度下命事項>

- (1) 就労支援における現状と問題点についての情報共有
- (2) 就労の促進・継続を支援するための方策及び、ネットワーク構築についての検討
- (3) 大学や産業界などの地域資源との連携の具体化についての検討

○下命事項に対する検討経過

下命事項（1）現状については、障害者雇用状況や優先調達法に関する状況等の情報共有を行った。また問題点については、実習先がないなどの件を継続で協議し、併せて、当事者部会から当事者の声として、「就労する現場での障害理解が必要」「自分に合った仕事を見つけられる仕組みが進むとよい」などの意見を聞いた。

下命事項（2）就労の促進については、「中間的な仕組みづくり」を中心に、企業実習やインターンシップの充実について検討を行った。

下命事項（3）大学との連携については、まずは学園祭での関わりに着目し、「区内大学地域連携担当者会議」をきっかけに、施設製品の販売ブースの設置を行うことができ、今後の連携が期待できる展開になった。

産業界との連携として、商店街等の祭りに着目し、その中からNPO法人との連携の初期段階が生まれた。

<検討内容総括>

（1）中間的な仕組みづくり

前年度からの引き継ぎとして、より具体的に特例子会社や就労継続支援A型施設の誘致も含めて検討を行った。実習先がないという課題については、就労支援センターの関係企業や、東京しごと財団での職場体験実習受入企業の活用を充実させていくこととする。また、企業実習のハードルが高い人には、区役所におけるインターンシップを更に充実させていくことが必要だという結論に至った。

（2）大学や産業界などの地域資源との連携

大学との連携は、学園祭への参加に着目し、今年度は1大学において、施設製品の受託販売が実現した。学園祭の参加には年度当初からの取組みが必要であり、来年度以降の早い段階からコンタクトをとることとする。また、商店会を中心としたNPO法人「街ING本郷」との連携を視野に、まずは障害者の理解を含め、相互理解を図っていく取組みを進めていくこととする。